

■依田学海 維新による精神的分裂状況を克服後、演劇改良運動を興し、多くの俳優を支援して向上に努めた。

よだがっかい

天保大飢饉始1833＝ 江戸八丁堀で、下総佐倉藩士依田貞剛の次男に生まれた。

大塩平八郎乱1837＝ 4歳：この年、藩主堀田正睦が老中となる。

天保改革弾圧1842＝ 9歳：
順天堂始・・・1843＝10歳：この年、藩主堀田正睦が老中を辞める。

阿部正弘首座1845＝12歳：

尊徳報徳論・1851＝18歳：書家牧野天嶺に入門するが、ほどなく辞め、
万次郎帰国・1852＝19歳：儒者藤森天山(弘庵)に入門して四書五経を学ぶ一方、詩文をよくした。
ペリー来航・1853＝20歳：

安政大地震・1855＝22歳：この年、藩主堀田正睦が再び老中となる。
松下村塾・・・1856＝23歳：日記(学海日録)をつけ始める。

五ヶ国条約・1858＝25歳：正睦が老中を罷免され、安政の大獄が始まるなか、藩の中小姓に任じられ、温故堂勤番となる。

桜田門外変・1860＝27歳：藤井喜一郎の長女と結婚。
遣欧使節・・・1861＝28歳：この年、正睦塾居、
8月18日政変 1863＝29歳：代官となり佐倉に赴任するが、
禁門の変・・・1864＝30歳：辞任。長女が誕生。この年、正睦が死去。

幕末に際して尊王の説を唱え、入京して公卿の間に周旋した。

大政奉還・・・1867＝34歳：江戸藩邸留守役となり、国事に奔走するうち、
明治維新・・・1868＝35歳：明治維新となり、徳川慶喜の助命嘆願のため、倉次亭に付き添って入京。
戊辰戦争終・1869＝36歳：佐倉藩大参事となり、
初の日刊新聞1870＝37歳：長男が誕生。
廃藩置県・・・1871＝38歳：廃藩置県で、旧佐倉藩の財務を整理して引き継ぐと、相済社を設立して社長となるが、
学問のすすめ1872＝39歳：東京に移住し、東京会議所書記官となる一方、師天山の命名で学海と号する。
明治6年政変 1873＝40歳：佐倉から家族も呼び寄せ、
佐賀の乱・・・1874＝41歳：報知新聞社に入社する一方、向島須崎の尼寺に寓し、
初の民間工場1875＝42歳：退社し、西村茂樹らと洋々社を結成して、漢学の研究を行う。第一回地方官会議の書記官となるも、終了後は修史局編修官をつとめ、

大久保暗殺・1878＝45歳：*伊藤博文とともに、守田勘弥・市川团十郎・尾上菊五郎らに演劇改良の必要を説き、

・・・1880＝47歳：四谷に転居、
明治14年政変1881＝48歳：文部省少書記官として、音楽取調掛兼編集局勤務となる。

岩倉具視没・1883＝50歳：神田小川町に転居。
秩父事件・・・1884＝51歳：翌年にかけて、随筆「譚海」を刊行。
内閣発足・・・1885＝52歳：紀行文「学海画夢」を刊行。退官すると、
帝国大学始・1886＝53歳：*福地桜痴(源一郎)らと{演劇改良会}設立に尽力、
国民之友始・1887＝54歳：戯曲「吉野拾遺名歌誉」以降、戯曲「当世二人女婿」、小説「俠美人」を刊行、
初の対等条約1888＝55歳：戯曲「文覚上人勧進帳」を刊行、
帝国憲法発布1889＝56歳：
帝国議会始・1890＝57歳：小説「小野篁」を刊行、
足尾鉾毒始・1891＝58歳：小説「十津川」と次々刊行するとともに、伊井蓉峰を支援して、男女改良演劇として{済美館}を組織、

日清戦争始・1894＝61歳：

白馬会・・・1896＝63歳：
歌舞伎の改良のため、守田勘弥(十二世)や市川团十郎(九世)などの俳優を直接指導後援するとともに、演劇に理解の少ない政府高官に対し、歌舞伎の認識や、演劇界の地位向上のことに努力した。

Bushidou・・・1899＝66歳：*雑誌{太陽}の詩人十二傑投票の一人に選ばれ、
ビブ/国産化・1900＝67歳：随筆「談叢」を刊行したが、
田中正造直訴1901＝68歳：*学海日録の記述が終り、

日露戦争終・1905＝72歳：

アヲヲ創刊・1908＝75歳：牛込区新小川町三丁目に転居し、
伊藤博文暗殺1909＝76歳：没した。
その他「英武蒙求」「改良脚本小御門」がある。